1 大雨災害! その時目黒区は?

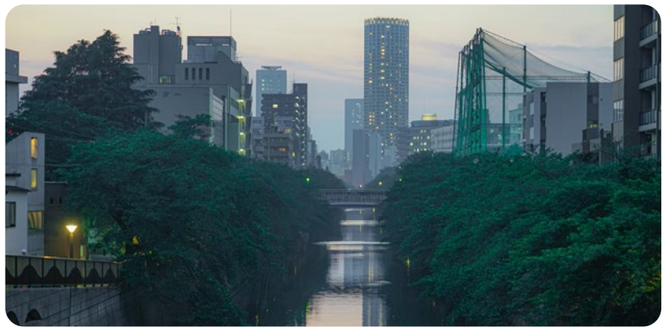
近年、集中豪雨の影響により、目黒川の河川氾濫や内水氾濫のリスクが高まっています。令和7年7月・9月には、目黒区の排水処理能力を超える雨量により、多くの浸水被害が発生しました。本特集では、大雨災害に対する区の取り組みを紹介するとともに、被害を最小限に抑えるために個人でできる身近な対策を取り上げます。いざという時にあわてないために、目黒区における水害の実態を知っておきましょう。







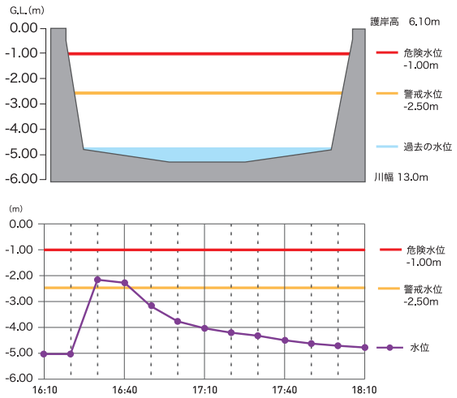
目黒川の特徴 短時間で水位が急上昇する川



目黒川は、流域が高度に市街化されており、地表面がアスファルトやコンクリートで覆われているため、雨水が地中に浸透しにくく、流域内に降った雨が短時間で河川に集まってきます。
そのため、豪雨時には短時間で急激に河川の水位が上昇する典型的な**「都市河川」**です。

⚠ 平成26年6月29日の事例

豪雨発生から**約10分**で水位が**約3m上昇**。
避難開始の判断が遅れると、命に関わる状況に陥るリスクがあります。



⚠ 記録的大雨 — 令和7年9月11日のタイムライン

最大時間雨量:緑が丘で134mm　総雨量:約162mm　※東京都観測

13:48	**大雨注意報**	気象庁より発表。 情報収集・警戒開始のタイミング。
14:33	**大雨警報**	雨が強まり、外出を控えて状況確認を。
14:45	**氾濫危険情報**	目黒川の水位が危険水位を超過。 避難開始の判断を。
14:53	**洪水警報**	洪水の危険が高まる。避難指示に注意。
15:40	**土砂災害警戒情報**	土砂災害リスクも加わる。複合災害に警戒。
19:22	**各警報解除**	注意報・警報が解除されるまで、約5時間半かかった。

ポイント

発表から氾濫危険情報まで**約1時間**と、対応の時間的余裕は非常に短い。
事前の情報収集と行動計画が不可欠です。

被害状況

- 浸水相談:約500件
- 道路冠水・施設被害・停電・交通影響あり

💡 **レベル2大雨注意報が発表された時点で、情報収集など自分にできる行動をすることが、命を守るための重要なポイントです。**

内水氾濫とは 川が氾濫しなくても家は浸水!?



川の水があふれなくても、集中豪雨により下水道や排水路の処理が追いつかずに地表に水があふれて冠水し雨水が地表にあふれ出す現象を「内水氾濫」といいます。
東京のような市街地は地表の多くが舗装されているため、雨水が地中に浸透しにくく、短時間で大量の水が下水道へ流れ込みます。

主な発生原因

- 下水道の処理能力を超える降雨(ゲリラ豪雨等)
- 周囲より低い地形・くぼ地への水の集中
- 局所的な大雨による下水道への雨水の急激な流入

特に注意が必要な場所

- 地下室・半地下のある建物
- 地下駐車場へのスロープ
- 低い位置にある出入口

目黒川の氾濫対策 都・区が進める治水工事

川が氾濫しないよう、東京都・目黒区は複数の工事を実施・継続中です。

蛇崩川増強幹線工事
(東京都下水道局)
既設幹線の能力不足を補う大断面トンネル(約6.6km)を地下に新設。1時間75mmの豪雨に対応する排水能力を確保。 **貯留量:約4万m³**(豪雨時に一時貯留)

河床整生工事
(目黒区)
川底に堆積したヘドロや土砂を除去し、川底を平らに整える維持工事。水質改善と流下能力の維持が目的。

河床整備工事
(東京都建設局)
川底を掘り下げることで河道断面を広げて、流下能力を向上。



河床整生工事の様子

ハザードマップ　読み方と色の意味

■ハザードマップの色の意味

赤　枠　河川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域

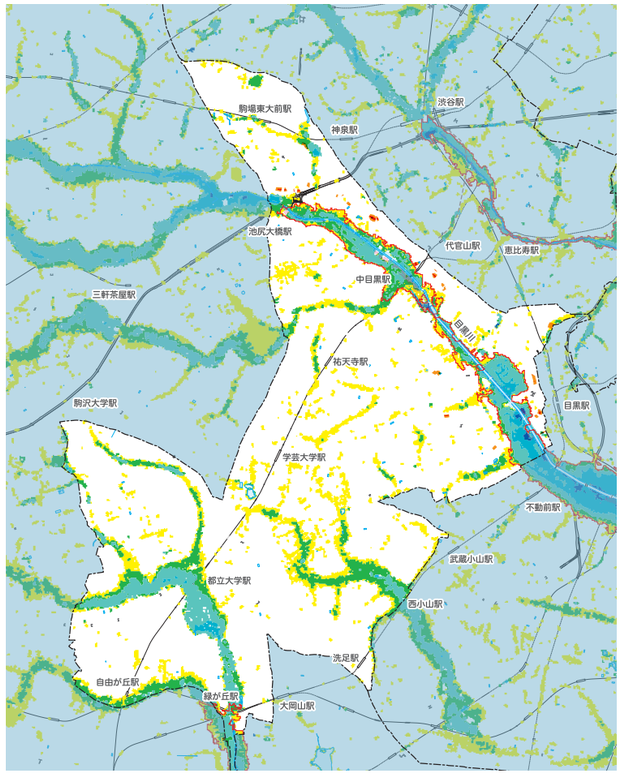
浸水した場合に想定される水深

- 5.0m以上
- 3.0m～5.0m
- 2.0m～3.0m
- 1.0m～2.0m
- 0.5m～1.0m
- 0.1m～0.5m

■ハザードマップの読み方

①自宅が赤枠内かどうか（河川氾濫リスク）を確認
②自宅区画に色がついているか（内水氾濫リスク）を確認
③浸水深を確認（地下・半地下は特に注意）
④河川氾濫＋内水氾濫の「複合リスク」を考慮

より詳細なハザードマップは区公式ウェブサイトでチェック！



家庭でできる浸水対策　建物内外の対策が重要

屋外からの浸水防止

- 土のうの活用（区内70か所・約9,700袋を配備）
- 簡易水のう（45Lごみ袋に半分の水）で出入口をふさぐ
- 止水板の代わりに段ボール＋水のうを使用
- プランターをビニールシートで巻いて連結
- 排水溝・側溝のゴミ除去

屋内での備え

- 気象情報を確認し危険時は外出しない
- スマホ・モバイルバッテリーをフル充電
- 浴槽に水をためる（断水・逆流対策）
- 排水口・トイレに水のうで逆流防止
- 貴重品や濡れて困るものを高い場所へ
- 懐中電灯・携帯ラジオを準備

地下・半地下への対策

- 豪雨時は地下施設に近づかない
- ガレージ・半地下玄関は土のう・止水板で流入防止
- 大雨に気づいたら速やかに地上へ
- 地下は急激に浸水し脱出困難になる

■土のうの積み方



土のうの積み方は区公式ウェブサイトをチェック

土のうは、下の段の土のうと土のうの「継ぎ目（境目）」を覆うように、上の段を半分（または1/3）重ねて積んでいきます。

■簡易水のうで逆流防止



2～3重にしたなるべく大きいごみ袋（45ℓ用）の中に、半分程度の水を入れ、口をしっかり縛ります。たくさん作って、出入口に隙間が出来ないように並べたり、排水口の逆流防止として使用します。

■段ボール止水板のつくり方



簡易水のうを段ボール箱に入れ、連結して使用することで止水版の代わりになります。水のうだけの場合に比べて強度が増し、また、段ボール箱に入れることによって水のうを積み重ねて使用することができます。

被災後の生活再建　り災証明と目黒区の支援

■令和7年9月11日 豪雨被害の状況

浸水相談件数	り災証明書等発行件数
約500件	約420件

被害の多くは地下・半地下の部屋への浸水でした。発災後も元の暮らしを取り戻すためには時間を要します。生活再建に必要な手続きを事前に把握しておくことが重要です。



当時のめぐろ区民キャンパスの雨漏りの様子



当時の道路冠水の様子

■り災証明書手続きの流れ

り災証明書は、被害を受けた住宅の状況を区が証明する書類。各種支援制度の利用・保険請求・税の減免などに必要です。

1. **調査申請**　専用フォームまたは電話にて申し込む
2. **現地調査**　区職員が被害状況を訪問調査　（被害状況によってはオンラインで完結！）
3. **証明発行**　郵送にてご自宅へ発送
4. **各種支援制度の利用**　支援金・税減免・住宅再建支援など

目黒区豪雨対策サポートプラン　激甚化する風水害から区民の命と暮らしを守るために

令和7年7月・9月の豪雨を受け、目黒区が策定した対策強化プランの主な内容です。

新規

- **消毒作業支援の開始**（消毒液の配布から区による消毒作業支援に拡充）
- **排水ポンプ貸出**（区内12台配備／各地区サービス事務所・防災センターに各2台）
- **相談窓口のワンストップ化・コールセンターの設置**
- **り災証明書発行手続きのオンライン化**

拡充

- **止水板設置工事費の助成拡充**
  個人は助成率4分の3→10分の9、法人は上限100万→150万円に増額・条件撤廃（特別区トップ水準）
- **土のう配備の増設**
  区内70か所・約9,700袋（前年比＋4か所＋500袋）令和8年４月時点
  緊急用土のう拠点場所（5か所）に土のう各500袋を備蓄



止水板設置工事費の一部助成により整備した事例